

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第205版

理念と実践で
絆を結びます

竹取新聞は、「子ども第一義」の理念のもと、皆様の保育に少しでもお役に立てたらとの思いでお届けしている新聞です。お客様との素敵な保育実践はもちろんな、マネジメントや働き方、子育てや暮らしのあり方、社内の取り組みやウェブ・IT支援まで、カグヤの実践を発信しています。明日から真似できることや、挑戦する勇氣につながることを大切に発刊しています。

竹取新聞に関する皆様のご意見や
ご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見も
お待ちしております。
お電話やメールでもOK！

03-3518-6217
info@caguya.co.jp



ホームページは、園の思いや日々の保育を未来の仲間へ届ける入口になります。

採用につながる ホームページの育て方

「求人を出しているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

「求人を求めているのに、なかなか問い合わせが来ない」園の皆さまからそんな声をお聞きすることがあります。

ホームページの写真掲載、 見直してみませんか？

近年、園のホームページやSNSでは、文章だけでなく写真を通して園の魅力を伝えることが一般的になっていいます。子どもたちの表情や行事の様子、日々の活動風景は、園の雰囲気を知りやすくなる大切な情報です。

一方で、写真に関する肖像権やプライバシーへの意識も高まっており、園児の写真を掲載する際には、事前に保護者の許可を得ることが必要です。特に近年では、園児の写真が第三者に悪用されるケースもあり、写真の掲載にはこれまで以上に慎重な対応が求められています。

実際に、こども家庭庁と文部科学省からも、乳幼児教育機関に対し、子どもの裸や性的な部位を含む画像をホームページ等に掲載しないよう注意喚起がなされています。すでに掲載している場合は、速やかに削除することも求められています。

例えば、プール遊びや水遊びの写実は、園としての季節の活動を伝える自然な一面であっても、インターネット上では想定外の見られ方をする可能性があります。実際に、とある園のアクセス解析を確認したところ、特定のキーワード検索により、プール遊びの投稿に多くのアクセスが集まっていたケースもありました。そのため、男女を問わず水着姿の写真は掲載を控えるなど、子どもたちを守る視点が大切です。

園の魅力を発信することは大切ですが、子どもたちの安全と保護者の安心を守ることと同じくらい重要です。掲載中の写真の確認や差し替えなど、気になる点がございましたらお気軽にご相談ください。

（川岸）

※アクセス解析とは、「ホームページがどのくらい見られているか」、「どのページがよく見られているか」を確認できるシステムです。

今月の

カグヤ社内「一元対話」テーマ

● 席替えテーマ：「今日の夕飯で食べるとしたら、さっぱり冷たいもの？ それとも汗をかきながら熱いものでデトックス？ 順」（新しい個性や一面が知れるようなテーマ設定がポイント！）

● 自由テーマ：「夏の楽しみや快適に過ごせるコツ」（オープンで本心本音が出しやすいようなテーマ設定がポイント！）



一元対話は、園が主体となって「聴く文化」や風通しのよい組織風土を育てていく実践です。カグヤは、その取り組みが園に根づくよう伴走しています。ここでは毎月、カグヤで実践された一元対話のテーマをご紹介します。導入いただいている園の聴福人さんがテーマを設定する際の参考にできれば幸いです。



一元対話にご興味のある方はお問い合わせください！



一元対話の情報は
こちらから

供えるこころ

8月に入り、もうすぐお盆ですね。日本ではこの時期、ご先祖様の魂が里帰りをするといわれており、家族や親族が集まってご先祖様をお迎えし、供養を行う大切な行事として親しまれています。

東京など一部の地域では7月にお盆を行うところもあり、旧暦・新暦による時期の違いはありますが、ご先祖様をお迎えし、ともに過ごしてお見送りするという趣旨は変わりません。仏壇やお墓にお供え物をされるご家庭も多いのではないのでしょうか。

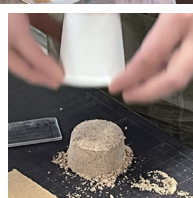
私自身、子どもの頃の家には神棚も仏壇もなく、「供える」という文化にあまり馴染みがありませんでした。しかし、大人になってから「室礼（しつらい）」と出会い、また家族との別れを経験したことで、一年や季節の節目ごとに感謝や祈りの気持ちを物に託して供える機会が増えました。その度に、その行為の大切さや心の豊かさを実感するとともに、日本人が受け継いできた文化や心を育ててもらっているように感じています。

そんな中、近年はお盆のお供え

として「落雁（らくがん）」を手作りするようになりました。実際に作ってみると、材料は「米粉・砂糖・水」だけととてもシンプル。作り方も、材料を混ぜて型に詰め、抜くだけです。どこか子どもの頃の砂遊びを思い出させるような楽しさがあり、大人も子どもも夢中になれるのでおすすめです。



型は、シリコンのものなら手軽に手に入りますし、紙コップなどでも作れます◎



落雁の作り方は
こちらのQRコード
からご覧ください。



自然からのメッセージ

一期一会庵

先日の熊本を震源とした大きな地震では、私のいる場所も大きく長く揺れました。東日本大震災の揺れを思い出し、あの時受け取った自然からのメッセージを振り返りました。私たちが「暮らしフルネス」に取り組む今があるのは、あの地震から声をいただき、初心を忘れないようにしてきたからです。

中国の思想に「天人合一」（天人相関）という思想があります。これは紀元前二世紀、中国・前漢の時代に生きた儒学者の董仲舒（とうちゅうじょ）という人物が人類に投げかけた問いです。

当時の中国では、法律によって国を治める法家、自然に任せる道家など、さまざまな思想が競い合っていました。その中で董仲舒は「国は力ではなく徳によって治まる」と説きました。その理由は、人間は自然の外側に立つ存在ではなく、天地とともに生きる一つの生命であるとし、すべては相関関係と因果によって為ると直観しました。つまり空を流れる雲も、山を吹き抜ける風も、川の流れも、月や太陽の光も、大地の震えも、人間とは無関係に存在するものではなく、同じ宇宙の理によって結ばれていると見立てたのです。

つまり天と人も自然の一部であり分かれているものではない。だからこそ人間社会が私欲によって乱れば、その歪みは自然との調和を失い、やがて社会全体の苦しみとなって現れると説きました。

大人たちは自然のメッセージを真摯に受けとり自らを省みる鏡にせよといいました。そしてその政治の実践のことを「徳治」と定義し、まず国を導く者自身が徳を積み、人を敬い、自然を敬い、その姿によって人々を導くことが政治の根本であるとしたのです。それを当時の漢の武帝によって国家の理念として採用され、その思想がのちに日本にも渡来し、聖徳太子の「和をもって貴しとなす」、熊沢蕃山の「治山治水」、二宮尊徳の「天道に従う」、西郷隆盛の「敬天愛人」など、日本の思想の根底にも、天地を敬い、人を敬い、自らを正すという和の系譜が脈々と受け継がれたといえます。

平安末期の書物『方丈記』にも、大地が震えればこの世に絶対に安全などというものは存在しないと誰しもが気づく、そして万物は変化して已まないし無常であると悟ると記されています。

今の世界に響き渡る大地の声は、私たちへの自然からの何のメッセージだったのか、犠牲になった方々のためにも、子どもたちのためにも今できることを内省し、真摯に改善に取り組んでいきたいと思っています。

（野見山広明）

編集後記

この度の熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。子どもたちの笑顔があふれ、地域の皆様が行き交ういつもの風景が、

一日も早く戻ることを願っています。そして、明日が今日より少しでも穏やかな一日となりますよう願っております。どうかお身体を大切に過ごしてください。

（眞田由利）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

